

# 成人看護実習前準備教育の学生評価報告

## Student evaluation report of the education before adult nursing training preparations

坂本 弘子<sup>1)</sup> 市川裕美子<sup>2)</sup> 小笠原陽子<sup>1)</sup>

**要約** 成人看護実習前準備教育は、実習をすすめていくうえでの知識や技術の復習や確認、再学習の目的で実施し2年が経過した。今回、その内容について実習に役に立ったかどうかについて調査した。実習が終了した3年生83名を対象に実施した結果、全8項目のうち、7項目に対しては、半数以上の学生が「役に立つ」と評価していたが、DVD学習のみが「あまり役に立たない」「役に立たない」と評価していた。今後の成人看護実習前準備教育の内容検討の必要性が示唆された。

キーワード：成人看護実習 実習前準備教育 学内演習

### I. は じ め に

医療技術の進歩、少子高齢化の進展、および社会ニーズの多様化などを背景として、高度な専門知識、高い倫理観、優れた実践能力を備えた看護師の育成が求められている。また、看護師に必要な能力は、看護実践能力、管理能力、人間関係調整能力であるといわれている。特に、優先順位が考えられ、安全なケアを提供できるための知識と技術が求められる看護実践能力の育成は、看護教育の大きな課題である。

看護学生が看護技術を習得するには、実習

での教育の果たす役割は大きい。しかし、学生がスムーズに技術を習得するには、患者の同意が得られないことや、実習病院のリスク管理の面からも、実習中に体験できる技術は限られており、困難を要することがある。また、学生自身も、技術提供の機会があっても自信がないため、見学にとどまってしまうこともしばしばみられる。中山らは、成人看護実習では、急性期・慢性期・回復期・終末期の対象に合わせた日常生活援助と、治療を受ける患者の援助など、幅広い知識、技術が求

---

1) 八戸学院短期大学 看護学科

2) 八戸学院大学 看護学科

められる<sup>1)</sup>と述べている。

本校の成人看護領域では、実習をすすめていくうえでの知識や技術の復習や確認、再学習の目的で実習前準備教育を実施し2年が経過した。技術演習を行う時間を増やし、自信をもって実習に臨むことができるように取り組んできた。また、最終学年である3年生の専門実習になると、学生であっても看護をする者としての責任が伴うため、実習に行く前に必要最低限の知識を身につけ、実習に向かうために多くの課題を課してきた。その内容は、領域別課題、周手術期課題、周手術期解説講義、4つの事例における全体演習、基本的な技術練習としてのグループ演習、DVD

学習、実習前解剖テストの7つの項目を実施している。さらに実習終了後には、知識の確認として、実習した領域の看護師国家試験過去問題集より抜粋した、一般・状況設定問題テストを実施している。しかし、これまで実習前準備教育については、実施後の反省を踏まえて内容を検討してきたが、学生からの評価を調査したことはなく、学生自身が役に立つと感じているのか、どう受け止めているのかを把握できていない現状であった。

今回、成人看護実習前準備教育の7つの項目と実習後に行っている一般・状況設定問題テストについての効果について、学生からの評価を得ることとした。

## II. 研 究 目 的

成人看護実習前準備教育の7つの項目と実習後に行っている一般・状況設定問題テスト

の効果について、学生の評価を知ることを目的とした。

## III. 実習前準備教育の内容

### 1. 領域別課題

学生が体験できる実習病院での領域ごとの課題を提示し、実習前までにまとめる。

領域は、①循環器系 ②呼吸器系 ③消化器系 ④脳神経系 ⑤整形外科系 ⑥血液腎泌尿器系の6領域であり記述式とした。

### 2. 周手術期課題

周手術期の手術前・手術中・手術後の情報アセスメントシートを配布し、解説講義までに自己学習とした。

### 3. 周手術期解説講義

周手術期のアセスメントシートを基に、解説講義を実施した。

### 4. 全体演習

事例Aから事例Dを提示し、事例のアセスメント、計画は実習グループごとに行い、教員指導のもと実際に演習を行う。

事例A氏：手術当日術前患者の身体的準備と手術室への申し送りまでの計画

事例B氏：術後1日目の術後合併症予防

のための援助計画

事例 C 氏：麻痺のある患者の清潔援助計画

事例 D 氏：心不全急性憎悪の患者の清潔援助計画

## 5. グループ演習

成人看護実習に向け、日常生活援助技術の確認を行うことを目的とする。実習グループごとに練習を行い、教員評価を受ける。演習内容は①バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・SPO<sub>2</sub>）報告 ②シーツ・横シーツ・枕・包布交換 ③陰部洗浄・オムツ交換 ④全身清拭・肌着病衣交換 ⑤体位変換・車椅子移乗 ⑥洗髪台を使つての洗髪

## 6. DVD 学習

DVD は疾患の観察やアセスメントの視点、援助のポイント、患者への関わりについて理解する目的で実施した。DVD は期限を決め、実習グループごとに視聴し課題について話し合い、まとめを記述して担当教員に提出し確認を受ける。事例は次の 12 事例であり、課題は「アセスメントの視点」として必要な情報を確認する内容とした。

事例 1 大腿骨頸部骨折患者の看護

事例 2 胃切除術を受けた患者の看護

事例 3 糖尿病教育入院患者の看護

事例 4 直腸切除術を受けた患者の看護

事例 5 脳梗塞患者の看護

事例 6 乳房温存術を受けた患者の看護

事例 7 慢性心不全患者の看護

事例 8 慢性呼吸不全患者の看護

事例 9 肝硬変症患者の看護

事例 10 急性骨髄性白血病の患者の看護

事例 11 慢性腎不全の血液透析患者の看護

事例 12 肺がんのターミナル期にある患者の看護

## 7. 実習前解剖テスト

実習前に知識の確認をすることを目的に、一般的な解剖の穴埋め式のテストを診療科ごとに作成し、実習前に確認することを目的に実施した。

## 8. 一般・状況設定問題テスト

実習中に得た知識や、学習の程度を評価することを目的に、実習が終了した診療科の一般・状況設定問題を看護師国家試験過去問題集から抜粋し実施した。

# IV. 研 究 方 法

## 1. 調査対象

八戸学院短期大学看護学科で「成人看護実習Ⅰ・Ⅱ」の受講者 83 名とした。

## 2. 調査期間

成人看護実習終了後の平成 27 年 11 月 16 日～2 週間

### 3. 調査方法

自記式質問紙を用いた調査で調査用紙は留め置きとした。

### 4. 調査内容

- ① 領域別課題
- ② 周手術期課題
- ③ 周手術期解説講義
- ④ 全体演習
- ⑤ グループ演習
- ⑥ DVD 学習
- ⑦ 実習前解剖テスト
- ⑧ 一般・状況設定問題テスト

以上8項目について、「A:役に立つ」「B:まあ役に立つ」「C:あまり役に立たない」「D:役に立たない」の4段階評価で回答を得た。また、自由記載欄を設け意見を求めた。

### 5. 倫理的配慮

対象者に対し、記入した内容については、調査目的以外には使用しないこと、個人が特定されないこと、この調査の協力の有無が成績評価等に影響されないこと、調査への協力は自由意思であることを質問紙配布時に説明した。回答をもって同意とした。

## V. 結

八戸学院短期大学看護学科において「成人看護実習Ⅰ・Ⅱ」の受講者83名に配布し、回答が得られたのは81名(回収率97.5%)であった。全体演習についての回答の未記入が2名みられたが、有効回答として処理を行った。

### 1. 実習前準備教育についての結果(表1)

#### 1) 領域別課題

役に立つと答えたのは、26名(29%)、まあ役に立つと答えたのは35名(46%)で合わせて75%であり、あまり役に立たないと答えたのは14名(17%)、役に立たないと答えたのは6名(8%)であった。

#### 2) 周手術期課題

役に立つと答えたのは、53名(64%)、まあ役に立つと答えたのは23名(29%)で合わせて93%であり、あまり役に立たないと答えたのは4名(5%)、役に立たないと答

## 果

たのは1名(2%)であった。

#### 3) 周手術期解説講義

役に立つと答えたのは、45名(54%)、まあ役に立つと答えたのは28名(36%)で合わせて90%であり、あまり役に立たないと答えたのは6名(7%)、役に立たないと答えたのは2名(3%)であった。

#### 4) 全体演習

役に立つと答えたのは、14名(15%)、まあ役に立つと答えたのは36名(48%)で合わせて63%であり、あまり役に立たないと答えたのは25名(32%)、役に立たないと答えたのは4名(5%)であった。

#### 5) グループ演習

役に立つと答えたのは、16名(16%)、まあ役に立つと答えたのは47名(61%)で合わせて77%であり、あまり役に立たないと答えたのは15名(19%)、役に立たないと答

表 1. 成人看護実習前準備教育への学生評価

	領域別課題 n = 81	周手術期 課題 n = 81	周手術期 解説講義 n = 81	全体演習 n = 79	グループ 演習 n = 81	DVD 学習 n = 81	実習前解剖 テスト n = 81	一般・状況 設定問題 テスト n = 81
役に立つ	26 (29%)	53 (64%)	45 (54%)	14 (15%)	16 (16%)	12 (13%)	12 (13%)	36 (45%)
まあ役に立つ	35 (46%)	23 (29%)	28 (36%)	36 (48%)	47 (61%)	23 (31%)	47 (59%)	34 (40%)
あまり役に 立たない	14 (17%)	4 (5%)	6 (7%)	25 (32%)	15 (19%)	35 (41%)	19 (24%)	8 (11%)
役に立たない	6 (8%)	1 (2%)	2 (3%)	4 (5%)	3 (4%)	11 (15%)	3 (4%)	3 (4%)

人 (%)

えたのは3名（4％）であった。

#### 6) DVD 学習

役に立つと答えたのは、12名（13％）、まあ役に立つと答えたのは23名（31％）で合わせて44％であり、あまり役に立たないと答えたのは35名（41％）、役に立たないと答えたのは11名（15％）であった。

#### 7) 実習前解剖テスト

役に立つと答えたのは、12名（13％）、まあ役に立つと答えたのは47名（59％）で合わせて72％であり、あまり役に立たないと答えたのは19名（24％）、役に立たないと答えたのは3名（4％）であった。

#### 8) 一般・状況設定問題テスト

役に立つと答えたのは、36名（45％）、まあ役に立つと答えたのは34名（40％）で合わせて85％であり、あまり役に立たないと答えたのは8名（11％）、役に立たないと答えたのは3名（4％）であった。

これまでの8つの項目について得られた4段階評価の学生評価を、「役に立つ」「まあ役に立つ」の合計と、「あまり役に立たない」「役に立たない」の合計でみるとDVD学習のみが評価が低く、その他の項目については半数

以上の学生が「役に立つ」と評価していた（図1）。

## 2. 意見等自由記載の結果

### 1) 領域別課題

- ・事前に学習したため、どの疾患の患者を受け持つことになっても手元に資料があったので良かった。
- ・配布されたのが2月と早い時期だったので、課題を行う時間が十分とれて周辺の内容も自己学習できた。
- ・もう少し、ポピュラーな疾患を細かく学習できるようにした方が良い。
- ・量が多く大変だったけど、国家試験や実習に役立った。

### 2) 周手術期課題

- ・手術後のアセスメントや経過日数において観察項目などとても役立った。
- ・アセスメントしても実際の患者を目の前にすると課題との違いなども大きくあった。
- ・術中に関する内容が少なく、手術見学をするには不足が多かった。術後合併症に対するアセスメントではなく事例で行っ

## 学生評価2群結果

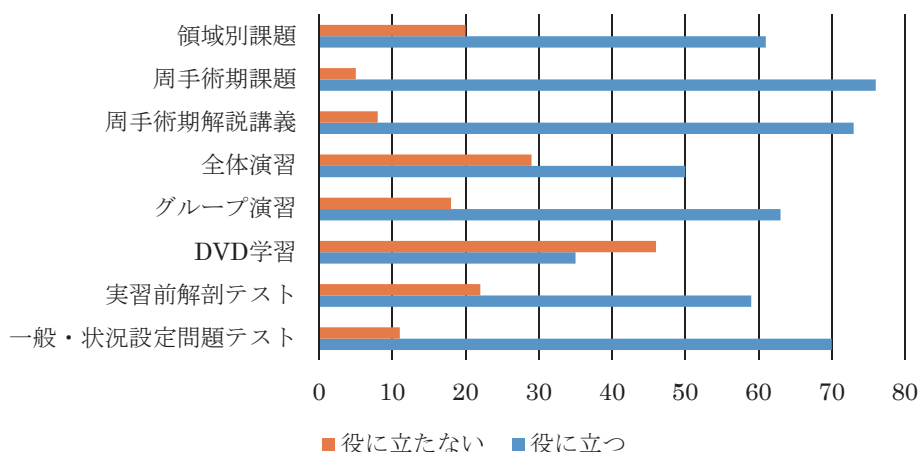


図1. 学生評価2群結果

の方が分かりやすい。

### 3) 周手術期解説講義

- ・限られた時間だったため、スピードが速い講義の進行で写すのが精一杯で説明を理解する暇がなかった。

### 4) 全体演習

- ・実技の確認ができて良かった。
- ・もっと周手術期の演習が欲しい。
- ・弾性ストッキングの練習をもっとしておけばよかった。

### 5) グループ演習

- ・実技の確認ができて良かった。

- ・患者をイメージして行えばよかった。

### 6) DVD学習

- ・量が多かった。

### 7) 実習前解剖テスト

- ・試験は適宜行い、確認した方が良い。これからも続けてほしい。

### 8) 一般・状況設定問題テスト

- ・実習で学べたことが理解できているか確認できる。
- ・解説してほしかった。
- ・試験は適宜行い、確認した方が良い。これからも続けてほしい。

## VI. 考察

領域別課題については、実際に実習する病棟の診療科にあわせた内容になっているため、効果的であると感じているようであった。しかし、領域別課題は一般的な疾患に留まら

ず、国家試験を意識した内容も取り入れていることもあり、一部の学生からはもっと一般的な実際に病棟で体験する疾患にしてほしいという意見がきかれた。課題の内容は



実習に役に立つことはもちろんであるが、看護師国家試験を意識した内容であったため、学生にはその意図を説明する必要があった。

また、周手術期課題と周手術期解説講義については好評であり、実際に観察項目など実習に役に立ったとほとんどの学生が答えた。しかし、事例で展開する内容を望む声もきかれ改善を検討する必要があった。

全体演習は、事例を提示し計画実践として展開した結果、6割以上の学生は役に立つ、まあ役に立つと答えていた。実際に実習で事例に即した患者を受け持たなかったのか、受け持ったのに役に立たなかったのか、今回の調査内容からは図れないため不明であるが、実際に体験できるような事例に少しでも近づけて演習を計画していく必要があった。

グループ演習では、実習メンバーと話し合い技術練習後教員評価を受けるという内容であったため、メンバー同士のコミュニケーションも図れ、意見を出し合いながら少数人数での指導が受けられたことと、技術の内容が実際に病棟で行われている内容であったため、役に立つと感じたのではないかと考えられた。

DVD 学習については、事例からアセスメントの視点を把握し、観察点や必要な情報を収集できることを目的に、テーマを決めて視聴を課題にした。しかし、実習メンバーのみでの実施にとどまったため学生が役に立ったという感覚を持つことができなかったのではないかと考えられた。効果のある学習にするためには、到達点を示し、模範解答を学生に提示し解説することが必要であった。

実習前解剖テストについては、1年生で学習した解剖生理の振り返りや学び直しに役に

立つと感じたのではないかと考えられた。しかし、解答にはかなりの時間を要した課題であった。

一般・状況設定問題テストについては、実際に実習で体験した診療科の系統別問題のため、実習で体験した内容であり役に立ったという意見が多かった。また、解答できない場合は学習不足を自覚し、再学習の機会を得ることになり効果的だという意見がきかれた。実習期間中は、国家試験の学習ができないと感じている学生もおり、問題を解くことで自信につながり学習への意欲が高まると感じていた。

小野らによると、演習は学生にとって臨地実習に向けての準備ができる授業になっていること、疾患の理解や看護過程の理解を深めること、さらにグループダイナミクスを発揮して他者から学ぶことを通して自ら学ぶ姿勢も養われている<sup>2)</sup>と述べている。実習前の学生は不安が大きく、知識の不足や技術の未熟さに加えて、他者との関係性の構築に不安を抱えていることもあり、グループメンバー同士の関係性を良好に保てるような教員の関わりも必要となってくる。今回、成人看護実習前準備教育を実習メンバーで実施していることで、学習効果が得られているのではないかと考える。

また、周手術期課題や解説講義においても、全体演習、グループ演習においても、行う際にはなるべく臨床で体験できるような事例を選択し、個別性を意識するような具体的なケアをイメージできるように指導内容を検討する必要があると考えた。

## VIII. 研究の限界

実習前課題や演習を実習メンバーや教員と行うことで、実習に役立つと考えた学生が多いことがわかった。しかし、今回の調査は、学生の主観的判断での回答のみであったため、今後、実習経験の有無との関係性や実習

成績との関係性など分析していく必要がある。また、事例展開での補講を希望する意見もあることから、学生がより具体的にイメージ化ができるような内容を検討していく必要がある。

## VIII. ま と め

1. 領域別課題、周手術期課題、周手術期解説講義、全体演習、グループ演習、実習前解剖テスト、一般・状況設定問題テストについては、半数以上の学生が実習に役に立つと

回答していた。

2. DVD学習については、半数以上の学生が実習にあまり役に立たないと回答していた。

## お わ り に

本研究にあたり、協力してくださいました八戸学院短期大学看護学科3年生の皆様に感

謝申し上げます。

## 文 献

- 1) 木村誠子他：看護実践能力を育成する教育方法と評価の文献的考察．広島国際大学看護学ジャーナル、9. 1: 25-34、2011.
- 2) 中山亜弓他：成人看護実習に向けての事前学習および学内演習の効果．新見公立大学紀要、31. 139-145、2010.
- 3) 小野晴子、逸見英美、中山亜弓、金山弘代、掛屋純子、柘野浩子：成人看護学における「成人看護学演習」の授業評価に関する研究．新見公立大学紀要、31: 1-7、2010.
- 4) 郡司恵理子他：成人看護学における技術教育についての検討—成人看護学 実習における看護基本技術の経験状況から—．保健学研究、19. 1: 27-35、2006.
- 5) 原田秀子他：成人看護学における看護実践能力の育成に関する研究—成人看護学実習前の効果的な学内演習プログラムの作成—．山口県立大学学術情報第2号看護栄養学部紀



要、2009.

- 6) 野口英子他：成人急性期看護実習生の実習前技術演習における術後管理技術の習得とその実践についての研究. 日本看護学教育学会、25. 1: 69-77、2015.